

Prophylactic Use of Tamiflu Bad Idea, Leading Virologist Says HSToday, MD (今日の国土安全保障、米国) タミフルの予防的投与は間違った方針：指導的ウイルス学者が警告
2008/6/11

初期治療が唯一の成功方法

米国政府はタミフルやリレンザのような薬をインフルエンザのパンデミックに対して感染防止を目的として、予防薬として用いることを提案しているが、その方針は完全に間違った方向性に向いたものだ、とオーストラリア国立大学、ジョン・カーティン医学研究校（John Curtin School of Medical Research at the Australian National University）の先の生化学・分子生物学教授であるグレメ・レーバー博士（Graeme Laver）がコメントしている。

レーバー博士は、タミフルとリレンザの開発に重要な役割を担った研究者であるが、この40年近くインフルエンザ・ウイルスの研究に埋没してきた。同博士と、もう一人の世界的ウイルス研究者である聖ユダ小児研究病院のロバート・ウエブスター博士は、人インフルエンザと鳥インフルエンザの間に関連性があることを初めて見いだしたとされている。1960年代に両者はインフルエンザウイルスに対する新しく革新的ワクチンを作成することに成功したが、それに対して世界から賞賛を浴びた。

レーバー博士は本編集局の取材に対して「パンデミックにおけるタミフルの予防的投与は間違っている。初期治療だけが唯一の成功に導くタミフルの使用方法だ」と語っている。

しかし、米国政府はタミフルとリレンザを感染防止のために予防的に使うことを提案している。それは前もって薬剤を備蓄し、被雇用者の治療や感染防止に役立てようと考えている企業界へのガイドラインで次のように示されている。

”ウイルス感染が起きた地域の全ての人々に予防投薬のためのタミフルを提供する”。

同様にWHOは、H5N1ウイルスのように毒性の強いインフルエンザ株が人の間で流行しだしたとき、感染が確定された人々と疑われた人々に抗インフルエンザ薬による治療を開始すると共に、ウイルスの拡大を防ぐために周辺地域へ予防投与のためにタミフルを提供する、と計画には記載している。

米国保健福祉省のパンデミック対策計画案作成者であるベン・シュワルツ博士は、今回の新ガイドラインで次のように提案している。

”保健医療従事者や緊急業務従事者のための予防として、保健担当局が予防用薬剤を用意して置くべきである”。

しかしながら本編集部は、保健福祉省内で、タミフルやリレンザを市民がパンデミックに際していつでも使用出来るように手渡しおくことに関して議論があることを知った。

レーバー博士は米国保健福祉省のガイドラインで提唱されている考え方に、さらに次のような問題もあると言う。

「個人的にタミフルやリレンザの備蓄は良い考え方ではない。それは次の2つの理由による。まず何も起こらずに、個人で備蓄した薬剤は無駄になるかも知れない。次に、もし備蓄されている薬剤が使われるとしたなら、それは自己診断に基づくことになる、決して素晴らしい発想ではない」

「まだワクチンが製造されていないパンデミック初期に、(抗インフルエンザ薬を用いて)拡大を防ぐという考え方は完全に間違っている」、とレーバー博士は説明する。

「価値ある抗インフルエンザ薬の資源を、意味無く無駄にすることになる。オーストラリアではパンデミックが始まってから6週間の間、重要な業務に携わる人々(essential workers)に、感染予防としてタミフルを服用させることになっている」。

しかし、と博士は言う。

「それから何が起こるか?重要な業務に携わる人々の選択も難しい、さらに何をしてでもタミフルを得たいという人々から、それを安全に保管することも難しいが、それよりも6週間が過ぎた後、タミフルを予防として服用した人々は、その後どのようにして感染防止をすれば良いのか?その時点では、備蓄していたタミフルは既に消費されているだろう」。

レーバー博士は本編集部に次のように語った。

「**感染初期にだけタミフルを使うことが、より良い使い方なのだ。もしインフルエンザ様症状を呈した人々が、即、タミフルを服用するならば、例えば症状出現後6時間から10数時間以内であるが、そうしたならウイルス感染は急速に治まってゆくはずだ。そして感染した人々は回復し、さらに、これが最も重要なことであるが、体内で免疫が獲得され、その後のパンデミックの中でのウイルス再感染が防止される。これはどのようなワクチンよりも優れた効果を発揮する。これは”感染中絶免疫(Aborted-infection Immunization)**と呼ばれていて、このようなタミフルの使い方、多くの保健医療従事者等は、その後の再感染を恐れずに業務にあたれる」。

「もちろん、人々は、感染中絶免疫の実績はない、と言うだろう」、とレーバー博士は説明する。

「もちろん、いまだ実績はない。しかしタミフルによる長期間の予防効果も、プレパンデミック・ワクチン使用の実績もない。しかし、自分は感染中絶免疫が効果を発揮することに賭ける」
効果を発揮するためには、タミフルは規定量を症状発現後6~12時間以内に服用する必要がある。

「48時間以内がタミフルが効果を発揮する限界の時間だ」、とレーバー博士は語る。

レーバー博士は、タミフルの予防的投与は、ある特定の環境下では意味があり、それはH5亜型やH7亜型ウイルスに感染した鶏を殺処分する作業員が服用する場合であると、考えている。

米国保健福祉省が新提案を発表する前、レーバー博士は彼の考えを国立ワクチン計画局長官で、保健福祉省長官下のパンデミック・インフルエンザ対策委員会議長でもあるブルース・ゲリン博士に手紙を送っている。

「自分はこれは全く間違っていると考える」とレーバー博士は書き、その理由を以下のように

挙げた。

「予防が終了すると即、タミフルを服用していた人々は、服用前と同じようにウイルスに感受性を示すようになる。感染して初期の治療の方がはるかに効果的だ」。そのようにレーバー博士はゲリン博士に伝えた。

「タミフルは、今、店頭販売すべきだ。(over-the-counter [OTC])。それにより(季節性)インフルエンザ感染者は、医師に診察してもらってから処方箋をもらうという時間を要する手段を省いて容易にタミフルを入手出来る。

「人々が季節性インフルエンザに対して、適切にタミフル(リレンザ)を服用出来るように学んでおくことは、地域全体がパンデミックに際して適切にこれらの薬剤を使用出来るように訓練されると考えられる」。

レーバー博士はまた次のように語る。

「迅速インフルエンザ診断テストを用いることは、インフルエンザに感染している人を速やかに検出し、症状発現後迅速に治療を開始出来ることになる。迅速に診断し、迅速に治療を開始出来ることは、感染症が速やかに終結し、インフルエンザ発病者が速やかに回復することを意味する」。

2006年遅くに米国CDCは、1140万ドルで4社に、医師や疫学研究者達が迅速に、正確にH5N1鳥インフル感染者を検出するための診断検査の開発を契約している。

ロスアンジェルス郡のパンデミック・インフルエンザ調整官であるブリト・オイウルフスタット(Brit Oiulfstad)さんは、タミフルの予防投与に関して本社編集部に懸念を表した。

オイウルフスタットさんは、自分も含めて他の当局者達は、長期間に亘る抗ウイルス剤による予防投薬(治療期間の数倍の期間)の効果が評価されていないのに、地域全体に長期間に亘る予防投薬をすることに懸念の意を表していると、語っている。

オイウルフスタットさんはさらに、抗インフルエンザ薬による対策は非常に複雑であるという。なぜなら現在使用可能な抗ウイルス剤が、将来パンデミックを起こすウイルスにも効果があるか分からないからである。(予防効果を示すか否か不明：訳者)。しかしながら将来発生するパンデミックに対して、医学的治療を目的に医療機関に配布することは意味がある。なぜなら全体的予防効果を期待するのではなく、重症例や死亡例を減らすのが目的となるからだ、と言う。

さらに、長期間使用による予防効果が明確ではないのだから、ガイドラインで推奨されていても、明確な答えが見いだされるまで、慎重に考える必要がある、とオイウルフスタットさんは語っている。

2005年10月に、米国感染症学会(The Infectious Diseases Society of America (IDSA))は、声明文を発表した。

”個人的抗インフルエンザ薬の備蓄は、不適切な使用につながり、薬の浪費となる”、と主張し、さらに”施設が保健医療スタッフの予防のために薬を備蓄するべきではない。なぜならこうした戦略は膨大な量の薬剤供給を、戦略として薬剤を初期治療に用いる以上に必要とし、治療に必要となる国家的レベルの薬剤量の不足を招くからだ”。

IDSAと米国保健疫学学会 (Society for Healthcare Epidemiology of America (SHEA)) では、地方保健局では患者の治療のために十分量の抗インフルエンザ薬を備蓄しなければならないと言っている。

両学会は、保健局は十分量の薬剤を用意しておき、入院患者数や死者数の減少と、社会機能の維持を図らなければならないと助言している。

以後、米国内のタミフル備蓄状況などの話が続く。

原文PDF

* 感染中絶免疫 (**Aborted-infection Immunization**) : 管理人が昨年 (2007年) の岩波書店発行「世界3月号」で論じたタミフルの使用法と全く同じ考え方である。管理人は、パンデミックに際し、国民全てにタミフルを配布しておき、発熱したなら即服用させる方法を提唱した。感染初期にタミフルを服用することで症状の軽症化を図るが、ウイルス感染は起きているため、それに対する免疫も成立すると考えていた。予防投薬は結果的にワクチン接種するならば良いが、そうでなければパンデミック終了まで内服を続けるという状況になる。